



松本病院

## 地域医療連携室だより

Matsumoto National Hospital



松本病院  
臨床検査技師長 北原 一司

たので一般に目に付きにくい内部組織の感がありました。以前この病院に勤めていたころは「病院の検査科にいます。」と言っても「検査科って何をしているんですか？」とよく聞かれました。少し知っている方でも「心電図検査をするところ」位の認識で、病理とか細菌検査をしているという理解できないと言う表情でした。

しかし検査専門のセンターができ広く知られるようになりました。病院の研究検査科も小規模で院内だけですが検査専門のセンターです。

私も地域医療連携室に係わる1人として、この「病院内の検査センター」を地域の方々に利用していただき、先生方の診断補助の手助けができればと考えています。

問題がないわけではありません。全てを引き受けるには検査センターとしての登録が必要ですが、登録はしてありませんし検体検査の全てを行ってはいませんので、血液、生化学・病理検査等の検体検査を引き受けるのには調整が必要となります。しかし尿波検査・心電図検査・超音波検査・呼吸機能検査・聴力検査・ABI（動脈硬化）等の生理検査部門ではお役に立てれるのではと考えています。

検査室に気楽に声をかけられる様に、また、検査項目や意義の問い合わせ等地域の先生方に開かれた検査室をめざしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

本年4月より千葉県にある病院から転勤で松本病院の臨床検査技師長となりました。どうぞよろしくお願ひいたします。私は平成元年3月31日まで約10年間この病院に勤務しており2度目となりますが当時と比べると病院の周辺が変化しており、あった店が無くなって知らない店となりテニスコートがショッピングセンターになるなど、景観も変わって新しくはじめての所に来た様な感覚にとらわれています。

私の病院内での仕事場所は「研究検査科」と言う部署です。現在の医療において検査データは病名の確定、治療経過の追跡等欠かすことのできないものとなっています。一昔のように「結果は次回の診察のとき

に」ではなく、いかに正確なデータを提供できるか、いかに早く提供できるかが問われて、診察前検査があたりまえとなっています。

あらためて、研究検査科は内科、外科とか放射線科とは異なり標榜できる科ではありませんので、あまり馴染みのない聞き慣れないところとなっていますが、病院では重要なところで、何をしているかということ「尿・便検査」「血液検査」「生化学検査」「免疫・血清検査」「細菌検査」「病理検査」「生理検査」等の検査を行っているところです。

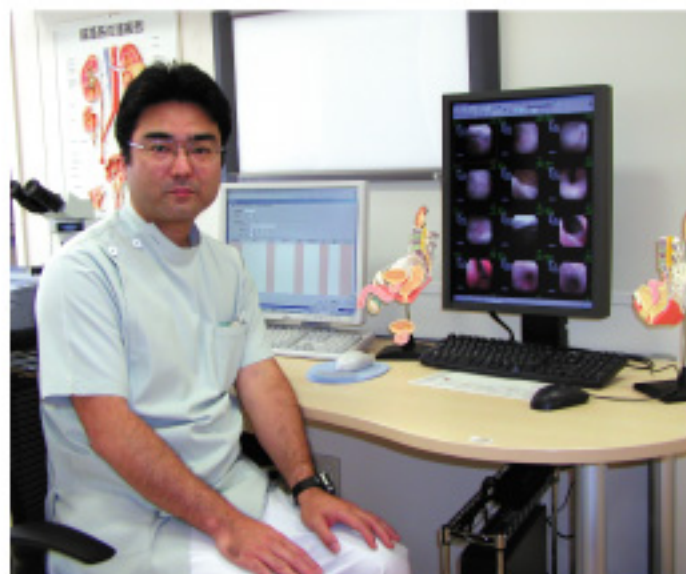
今までは、当院の入院・外来患者様が相手に採血、採尿は診療各科で行い検査科へ届けられ、検査の測定結果も診療各科に届けられていまし

## 松本病院の理念

- 患者様の立場や権利を尊重し、十分な説明と同意のもとに、患者様中心の医療を行います。
- EBMに基づいた医療を行うことにより、人の生命に関わる専門職として、質の高い医療を責任をもって提供します。
- 和とは連携である。職場の和のみならず、専門技術を総合的に連携させ、チーム医療や地域の医療連携を大切にします。
- チャレンジ精神を持ち、常に前進します。



# 開業医の先生紹介



## 紺谷泌尿器科クリニック 紺谷 和彦 院長

私は、平成3年に信州大学を卒業しました。当時の泌尿器科教授は、小川秋實先生でした。学生時代の講義で膀胱癌に対する尿路変更に興味を持ちました。小川先生から「アメリカ人の前立腺癌患者は、肺癌に次いで多く今後日本でも前立腺癌患者が増加するよ。」とお聞きして泌尿器科入局を決めました。平成8年4月から平成10年3月まで松本病院でお世話になりました。この間山成久先生から手術について人生観が変わる程いろいろ教えて頂きました。この時の経験がその後の手術の基礎になったと思います。平成12年に信州大学に戻り平成14年から1年間泌尿器科の病棟医長を経験しました。入院患者がなかなか増えず、毎日事務から問い合わせの電話がありました。年が明けて平成15年になると天皇陛下が前立腺癌で手術を受けられました。その後前立腺癌が世の中に認知されるようになり患者が急に増えてきました。事務からの電話もなくなりました。まさに、病棟医長として

逆転満塁ホームランを打った思いでした。(私自身は、何もしていませんが)

信大に在籍した3年間ですが月に1から2回長野市の開業医の先生所に外来の手伝いに行きました。病院以外で外来をやるのは、初めての経験でした。患者様との距離も近く、1人1人とゆっくり話が出来る自分が求めていたスタイルに出会った思いでした。この頃から開業を考えるようになりました。そして平成15年6月から平成18年8月まで再び松本病院でお世話になりました。大学を辞める時現泌尿器科教授西沢理先生に数年後に開業したい意思を伝え二つ返事で了承して頂きました。

松本病院勤務中の平成16年から松本市の市民検診でPSAが導入されることになり、前立腺針生検の件数が増大しました。1年間で250件を超える生検を行い100人以上で前立腺癌が発見されました。前立腺全摘術の件数が年間50例を超えたこともありました。まさに小川先生の予言は

的中しました。

昨年の8月に平田西に泌尿器科のクリニックを開業してから1年となりました。この1年は慌ただしく過ぎていきました。この間、日帰り前立腺生検30例、膀胱内視鏡検査90例、包茎手術6例、コンジローマ切除5例他小手術を施行してきました。松本病院を始め近隣の先生方には大変お世話になりました。特に松本病院では、TUR-Bt8人、膀胱鏡手術2人、前立腺全摘術2人等治療をして頂きました。今後も、地域に密着した医療を目指し泌尿器疾患特に悪性腫瘍の発見に力を入れより多くの患者様の手術治療を松本病院でお願いしたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。



### 紺谷泌尿器科クリニック

〒399-0015

長野県松本市平田西1-31-2

TEL : 0263-85-0200

FAX : 0263-85-0212



## 禁煙外来のご案内

日時：毎週月曜日  
15:00~16:00  
担当医：青木診療部長  
予約：地域医療連携室

「禁煙して、よかった。」

禁煙したい人、ご相談ください。  
応援します。



松本病院



### 最近の診療トピックス(3)

#### 癒着性イレウスに対する高気圧酸素療法 —胃管もイレウス管も入れません—

高気圧酸素療法とは、2.0～2.5気圧の専用の酸素カプセル内に一定時間入って治療する方法です。1.2～1.5気圧の酸素テントに入る疲労回復のための使用と違って、保険適応のある疾患が決められています。よく知られているのは、潜水病、CO中毒、突発性難聴、脳梗塞後遺症などですが、実はイレウスもそのひとつです。当院では1999年に高気圧酸素療法室を開設し、脳梗塞症例を中心に治療を行ってきましたが、最近では70%以上が、イレウス症例となっています。この間に約250例のイレウスに対する治療を行ってきましたが、高気圧酸素による解除率は93%となっています。イレウスを疑われて来院した患者さんはまず、イレウスの鑑別のための検査を行い、絞扼性や癌性イレウス、急性腸炎、便秘などを否定します。これらの鑑別にはCT検査が有効です。癒着性イレウスと診断された場合は胃管、イレウス管を併用せず、すぐに高気圧酸素治療(2.5気圧で60分の治療)を行います(嘔気の強い人は吐いてもらってから治療します)。これを1日1回行い、排ガスや排便がなければ翌日も行います。

全体の解除率は93%で、高気圧酸素療法の平均施行回数は2.2回でした。解除された症例の98%が3回までで解除されています。保険上は5回(5日)までの治療が可能ですが、このデータから当院では3回で解除しない場合は、イレウス管を入れるか、手術を行うこととしています。実際には高気圧治療の無効15例中14例がイレウス管に移行したのですが(1例は希望により手術)、イレウス管で保存的に解除できたのは7例のみで7例はイレウス解除術が必要でした。つまり癒着性イレウスの症例でイレウス管が必要な症例は3%、手術が必要な症例も、全体の3%に過ぎないということになります。またイレウス解除後に患者さんの希望により待機的に手術を行ったのは6例でしたが、このうち2例はその後イレウスを再発し、高気圧酸素治療で解除しています。2度イレウスを起こしたら手術をすとか、1週間イレウス管を入れていて解除がなければ手術をするという治療方針もありますが、根拠のあるものではありません。誰でも長期にわたる管は入れたくないでしょうし、切らずに治ればこれに超したことはありま

(次頁)



## リレー形式

せん。問題は再発率ですが、原因の解除はされていないため、25%程度再発はあります。再発した場合でもほとんどの方が高気圧酸素療法で解除します。

副作用としては、耳痛、減圧中の嘔吐、不整脈などがありますが、重篤なものはありません。以前に爆発事故がありましたが、そのほとんどは意思疎通のできない脳梗塞患者が着用していたカイロが原因でした。コストは1回5000点なので3割負担で1万5千円程度になります。イレウス管挿入が5,189点、開腹下の癒着剥離術が10,900点、腹腔鏡下の癒着剥離術が25,600点ですからコスト的にも遜色ない治療法と考えられます。管を入れずにイレウスを治す、イレウスの方がいましたら、一度試してみてください。なるべく早く治療に入る方が、早く治ります。

### 症例

72歳、女性、66歳時に胃癌で胃全摘術施行。2002年11月イレウスとなり入院。



入院時

HBO1回施行後

外科医長 小池 祥一郎

次回は、消化器科の  
高林先生です！

### 松本の歳時記

9/23 秋のお彼岸

9/25 お月見  
(仲秋の名月)

### 第32回糖尿病講座

日時 10月1日(月)  
11:30~13:30  
場所 松本病院 2階会議室  
講座内容 「食事バイキング講座」

詳細・お申込みは  
地域医療連携室へ

### 小児科勉強会のお知らせ

日時 9月20日(木)  
19:00~20:00

場所 会議室  
地域の皆様方のご参加を  
お待ちしております。

小児科